

令和7年度 第1回みどり市地域公共交通活性化協議会

【みどり市地域公共交通計画について】

令和7年7月10日

本日の検討内容

月	活性化協議会		STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	STEP5
R6.11	#2	■ みどり市の公共交通の実態について ■ 事業者ヒアリング結果について ■ アンケート調査の設計について		・地域のあるべき姿 上位計画・関連計画等	・現状の把握 ・アンケート調査 (案)	・現状の把握 ・アンケート調査 (案)	
12					アンケート調査 ✓ 市民、高校生アンケート ✓ 来訪者アンケート ✓ 大間々・笠懸路線バス利用者アンケート		
R7.1	#3	■ 書面開催					
2							
3	#4	■ アンケート調査の結果について ■ 公共交通の課題について	・計画の区域 (案) ・計画期間 (案)		・アンケート調査の結果 ・課題 (案)	・アンケート調査の結果	
4							
5							
6							
7	#1	■ 基本的な方針について ■ 目標について ■ 施策について		・基本的な方針 (案) あるべき姿 (スローガン)	・目標 (案) あるべき姿を実現するために達成すべきこと	・施策 (案) 目標達成のための事業	
8							
9	#2	■ 目標について ■ 施策について ■ 評価について			・目標 (案) あるべき姿を実現するために達成すべきこと	・施策 (案) 目標達成のための事業	・評価 (案) 方法 スケジュール
10			みどり市地域公共交通計画 (素案)				
11	#3	■ 地域公共交通計画(素案)について	②計画の区域 ⑥計画期間	①基本的な方針	③計画の目標	④事業・実施主体	⑤達成状況の評価
12			パブリックコメント				
R8.1							
2	#4	■ 地域公共交通計画(案)について	みどり市地域公共交通計画 (案)				
3			みどり市地域公共交通計画				

目次

1. 前回協議会の振り返りと追加の整理事項について	5
(1) 前回協議会の振り返り.....	5
(2) 追加の整理事項.....	7
2. みどり市地域公共交通計画の記載事項について	13
(1) 計画で定める基本的な方針・目標.....	13
(2) みどり市内の公共交通の位置付け.....	19
(3) 計画で定める施策体系・事業内容.....	25
(4) 計画で定める評価指標.....	31
3. 今後について	34
(1) 今後の検討の流れ.....	34

1. 前回協議会の振り返りと追加の整理事項について

(1) 前回協議会の振り返り

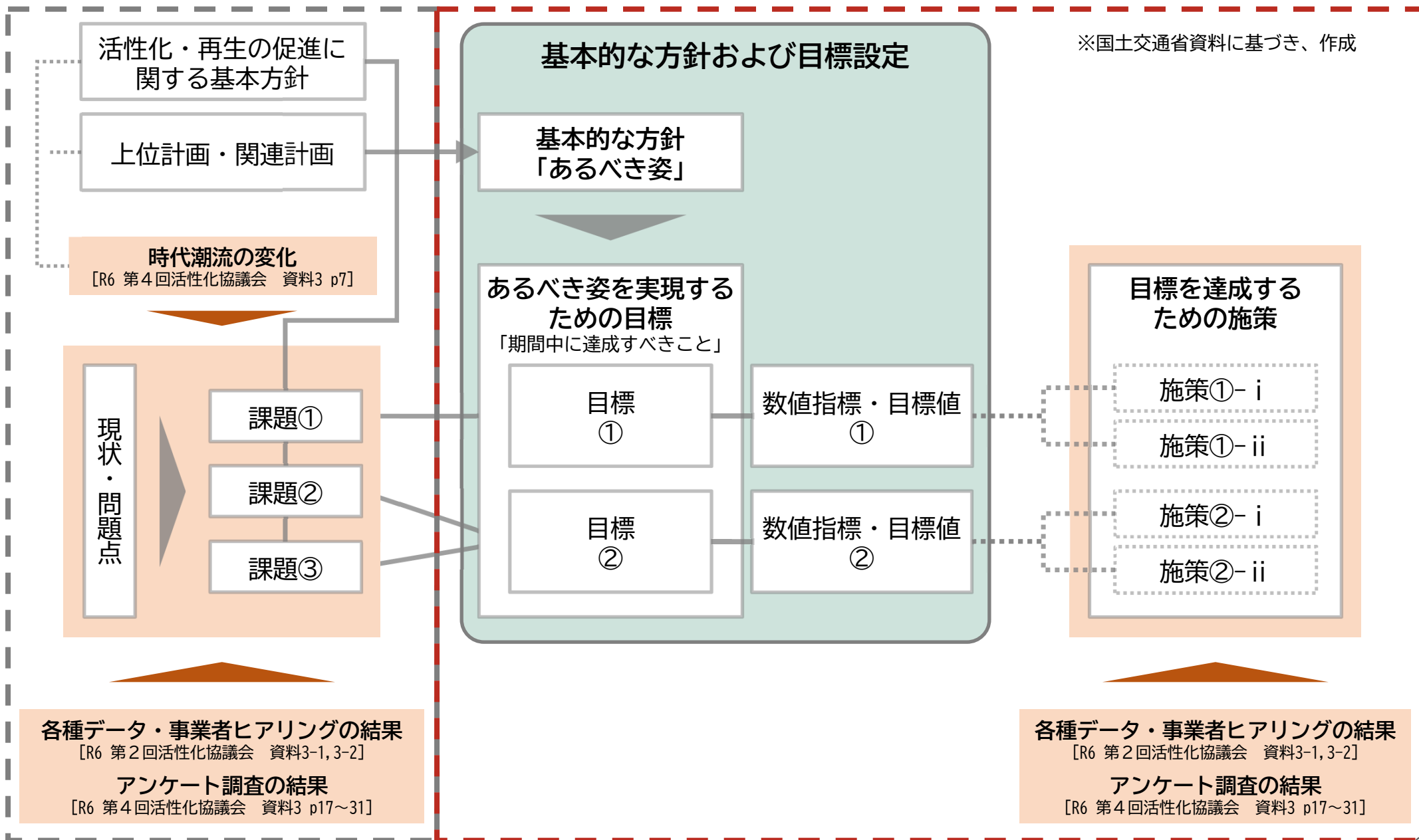
1) 令和6年度 活性化協議会での検討事項

(1) 前回協議会の振り返り

令和6年度 活性化協議会
にて検討

令和7年度 活性化協議会
にて検討

※国土交通省資料に基づき、作成



1. 前回協議会の振り返りと追加の整理事項について

(2) 追加の整理事項

1) 現状の追加整理 [1/2]

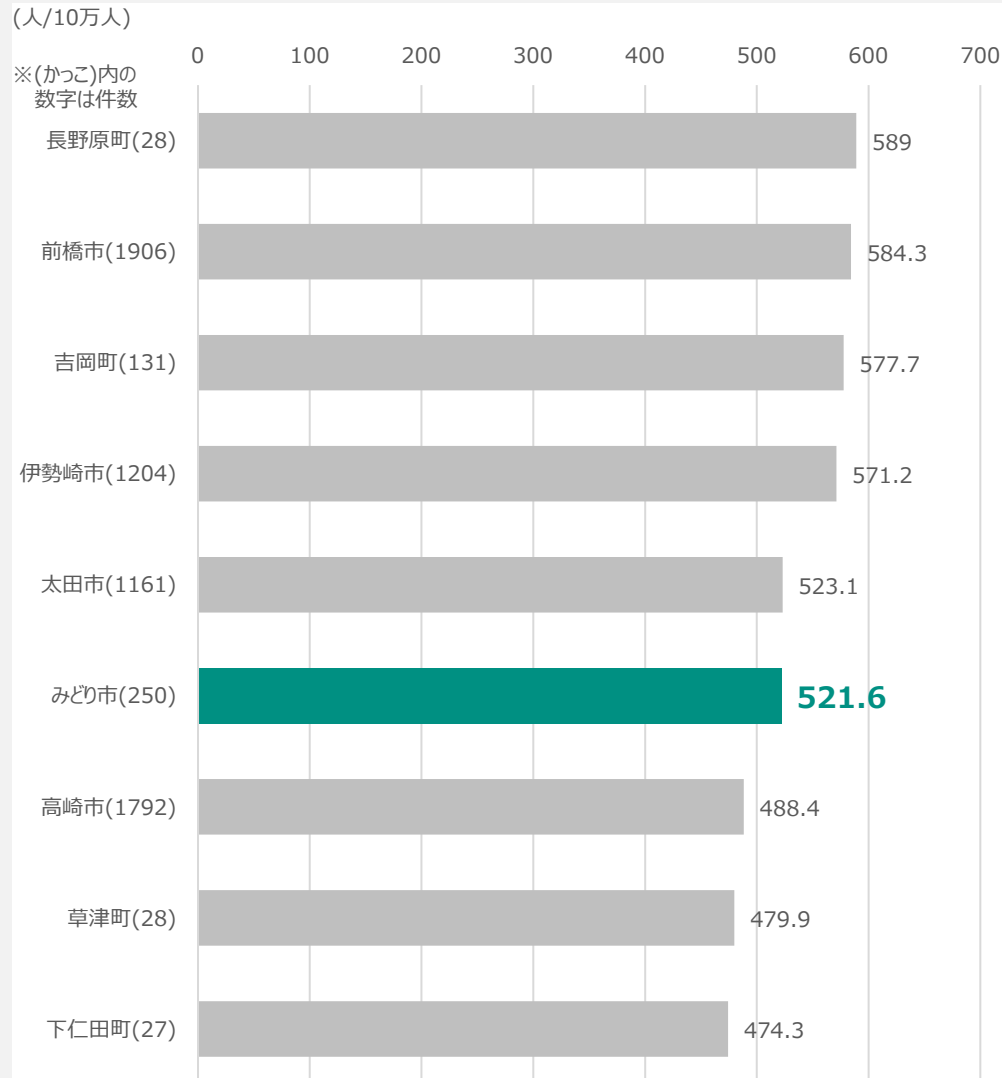
(2) 追加の整理事項

①みどり市の交通事故の発生状況

□ みどり市ではどの程度”交通事故が発生”しているか

- 令和6年の人口10万人当たりの人身事故発生状況は、群馬県内でワースト6位であり、近隣の伊勢崎市・太田市を含めて、**人身事故の発生率が高い**。

◆令和6年 市町村別人身事故発生状況ワースト10位（人口10万人当たり）

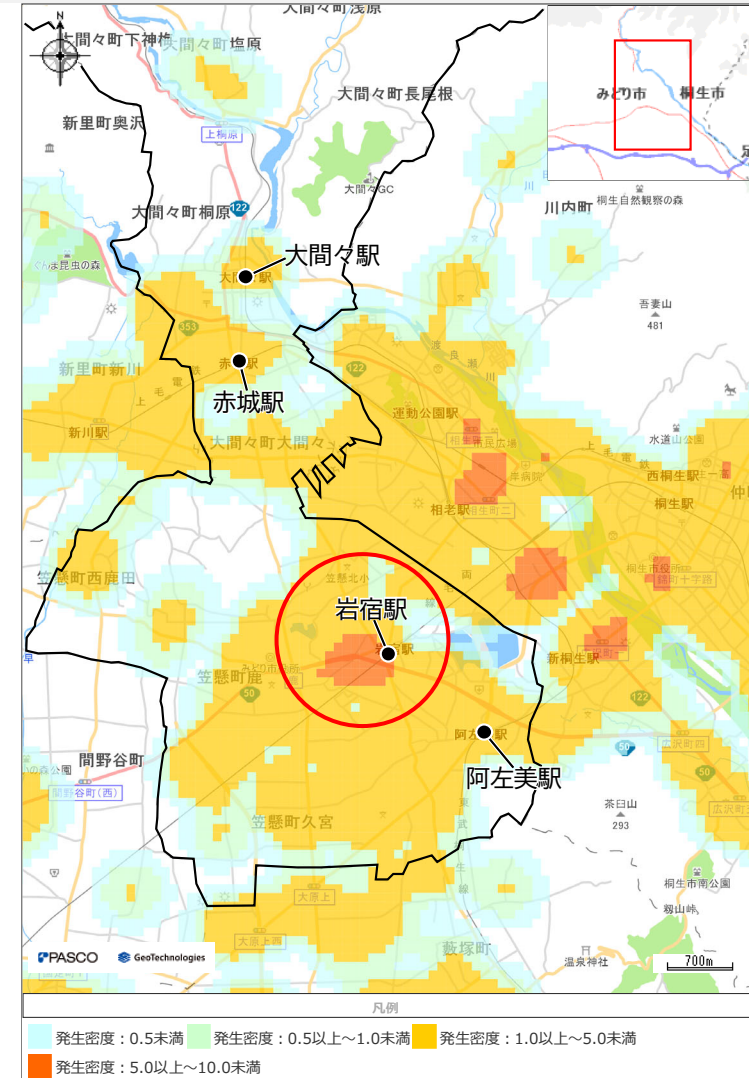


資料：群馬県警察HP

□ みどり市内で”中高生の自転車事故が発生”している場所はどこか

- みどり市内では、**広範囲にわたり中高生の自転車事故が発生**している。
- 特に、**岩宿駅周辺での発生率が高い**状況となっている。

◆中高生の自転車事故の発生状況



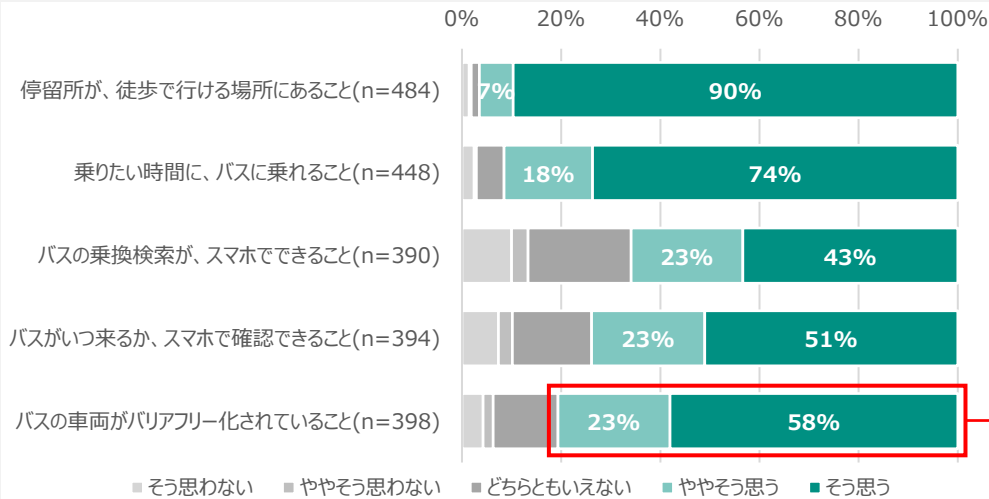
資料：マッピングぐんま 8

② バリアフリーへの関心

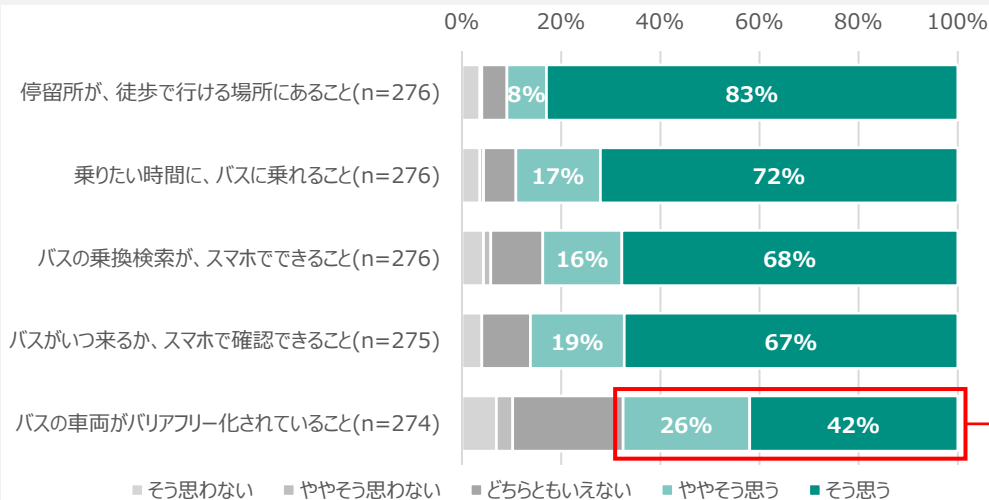
□ 高齢者は路線バスに”何を求めている”のか (市民アンケート19歳以上)

- ・ルートやダイヤの改善を求めているが、60歳未満に比べ、60歳以上の方がバリアフリー化されていることを路線バスを使う条件として求めている。

◆ 路線バスを使う条件【60歳以上】



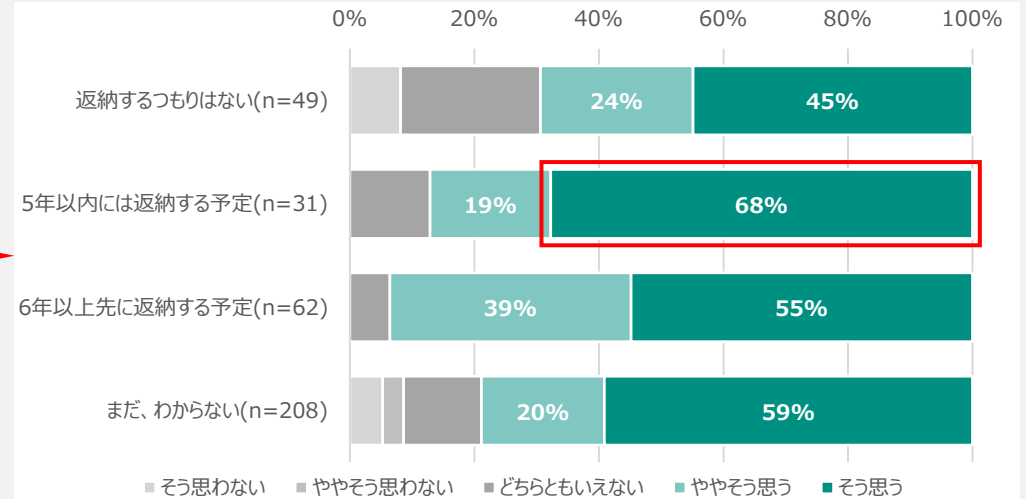
◆ 路線バスを使う条件【60歳未満】



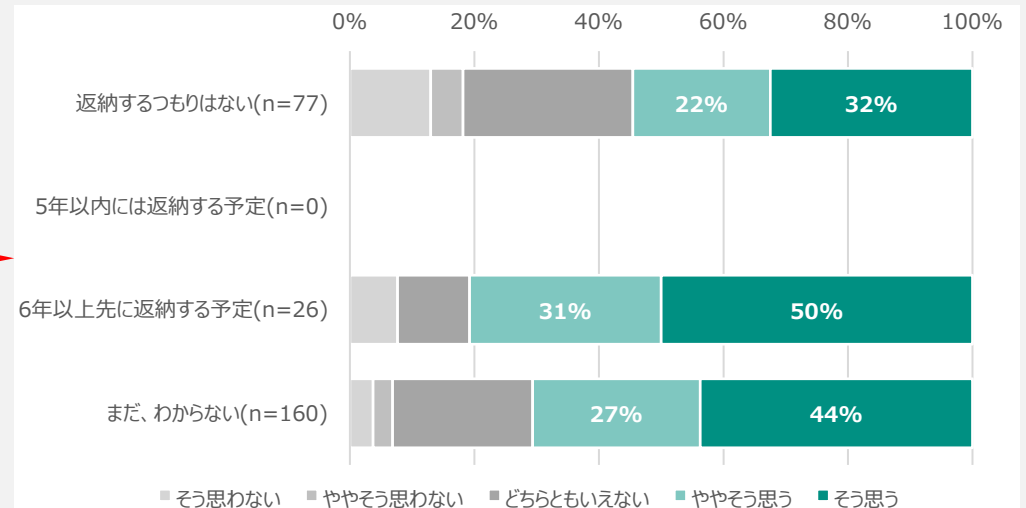
□ 免許返納を検討している方は”バリアフリーに対して関心”があるか

- ・免許返納を検討している方は、バリアフリー化に対して関心を持っている。
- ・特に、5年以内に返納を検討している方の関心が高い。

◆ 免許返納×バリアフリー化【60歳以上】



◆ 免許返納×バリアフリー化【60歳未満】



視点		問題点	課題（テーマ）
利用者	市民	- 通勤を含め、幅広い年代で自動車利用が多く、特にみどり市北部では「自分で運転する」ため公共交通を利用しない傾向が強く、利便性の高い公共交通が提供できていない。 - 鉄道を利用するとしても、駅までは自家用車でのアクセス率が高く、公共交通が利用されていない。 - マイカーから公共交通への転換意識は高いものの、実際に公共交通を利用している人は少ない状況となっている。	① 多様な公共交通を活用した 目的に応じて柔軟に利用できる 公共交通の構築
	高校生	- 市外へ通学する生徒は路線バスを利用できていない。駅へのアクセス手段として自転車や保護者の送迎に頼らざるを得ない状況であり、交通事故のリスクや交通渋滞が発生、保護者の負担の増加が懸念される。 - 高校生が多く住む笠懸町の南西地域では、公共交通が整備されておらず、公共交通の利用が難しい環境となっている。	② 市内・市外への通学に対応した 駅・学校への交通手段の確保
	高齢者	- 商業施設や医療施設への移動需要は高いものの、鉄道や路線バスの利用は進んでおらず、利便性の高いサービスが提供されていない。 - 現在、公共交通を利用していない市民であっても、免許返納後の生活に対する不安を抱えている。 - 笠懸町・大間々町では、電話でバスが運行しているが、予約が取りづらい状況が続いており、本来必要としている人が予約を取れずに諦めてしまい、結果として外出の機会を失っていると考えられる。 - 電話でバスをタクシーの代替え手段として利用され、サービス水準を超える要望が発生している。 - 少子高齢化が特に進行している東町では、NPOによる移動サービスに対するニーズが一層高まることが予想される一方で、運転手不足に加え、輸送以外の要望も増加しており、持続可能な運行が困難になる懸念がある。	③ 高齢者の買い物・通院ニーズに 対応した公共交通の再編
	観光客	「自然景観・鉄道」を目当てに訪れる来訪者が多く見られるが、遠方からの来訪者は鉄道を利用するケースが多い一方で、近距離からの来訪者は自家用車を利用する傾向が強く、利便性の高い公共交通が提供できていない。 - 鉄道駅から観光施設が離れており、シームレスな運行とはならず公共交通利用へと繋がっていない。	④ わ鐵を軸とした 観光振興に資する 公共交通の構築

視点	問題点	課題（テーマ）
持続可能性（公共交通のあり方）	安心・安全確保 魅力向上・発信 収入確保 ・人口10万人当たりの人身事故発生状況は、県内でワースト6位に位置し、近隣の伊勢崎市や太田市を含め、人身事故の発生率が高い傾向が見られる。特に、中高生の自転車事故に関しては岩宿駅周辺で発生率が高く、今後も事故が発生する可能性が懸念される。 ・60歳以上で、今後5年以内に免許の返納を検討している方は、バリアフリー化への関心が高い傾向にあるが、現状では一部の公共交通でしかバリアフリー化に対応しておらず、利用環境の整備が十分とはいえない。 ・路線バスが運行されている地域であっても、情報不足や周知活動の不足により、その存在が十分に認識されず、利用意識の醸成が進んでいない。 ・「自然景観・鉄道」を目当てに訪れる来訪者が多く見られるが、十分に周知されておらず、みどり市の景観や鉄道のポテンシャルを最大限に活かしていない。 ・鉄道を利用しない高校生には鉄道の魅力が十分に伝わっておらず、今後の公共交通の利用促進を妨げる要因となっている。	⑤ 市民・観光客が 「利用したくなる」 公共交通サービスの提供
	意識醸成 連携強化 ・市民の多くが自家用車を移動手段として利用しており、それに伴い交通渋滞の増加や環境負荷の深刻化が懸念される。 ・鉄道、路線バス、電話でバス、タクシーは、コロナ禍の影響で利用者が減少し、一事業者単独での取組だけでは利用者の確保が困難になっている。 ・タクシーを始めとした交通事業者の人員不足により、今後のサービス水準の低下が懸念される。	⑥ 地域・多様な公共交通が 一体となった連携体制の強化
	最適化 支出抑制 DX・新技術 ・重複する区間や、利用実態のない路線・バス停が存在しており、利用者のニーズに応じたサービスの提供が提供できておらず、非効率な運行となっている。 ・大間々・笠懸路線バスにより、大間々駅・赤城駅・岩宿駅・阿左美駅を結んでいるが、シームレスな運行とはなっていない。 ・東町路線バスや電話でバスでは、運行経費の増加や利用者が減少しており、サービス水準の低下が懸念される。 ・笠懸町・大間々町では、電話でバス運行しているが、需要の高さから予約が取りすづらい上に、相乗りが進まず効率的な配車の実現できていない。	⑦ 笠懸・大間々・東 それぞれの地域特性に応じた 公共交通システムの構築

2. みどり市地域公共交通計画の記載事項について

(1) 計画で定める基本的な方針・目標

1) 計画策定に当たっての基本的な考え方(3つの柱)

(1) 計画で定める基本的な方針・目標

① 現在の公共交通の改善

□ 現在の公共交通の状況

- ・みどり市は平成18年3月27日に、新田郡笠懸町、山田郡大間々町、勢多郡東村が合併し、誕生
- ・2町1村が合併したことにより、本市には多種多様な地域公共交通が存在するが、それぞれの役割が明確化しておらず、非効率な運行が続いている

② フィーダー補助金の活用

□ フィーダー補助金とは

- ・正式名称は「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」(通称：フィーダー補助)
- ・「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」の補助メニューの1つ
- ・幹線系統を補完する、赤字の支線(フィーダー)の運行経費に対する補助
- ・補助対象事業者は活性化法法定協議会

③ 公共交通への理解促進・行動変容

□ 市民の公共交通に対する意識

- ・市民の移動手段は、自動車が大半を占め公共交通を利用することに対する意識が低い
- ・公共交通の存在を認識しておらず、利用しようとの考えに至っていない

□ 時代潮流の変化への対応

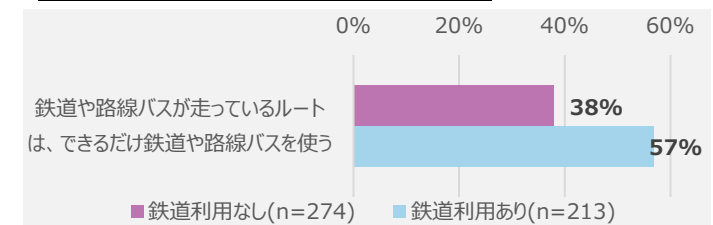
- ・多様な移動手段の確保・維持、安心・安全を考慮した快適な公共交通の実現
- ・DXによるサービスの効率化・高度化、新技術・新たなモビリティによる課題解決
- ・脱炭素型社会の実現に向けたスマートムーブの推進、脱炭素型都市・地域づくりの推進

現在の公共交通の役割を明確化し、
利用しやすく効率的な運行体制
を構築する

地域公共交通確保維持改善事業
(フィーダー補助)を活用し、
持続可能な運行を目指す

公共交通への理解を深める取組
を進めながら、
行動変容を促す

高校生の鉄道利用の有無での意識の差



車を運転する前に公共交通に対する意識を変えないと
将来的な公共交通利用に繋がらない

2) 基本的な方針・目標（案）

（1）計画で定める基本的な方針・目標

第2次みどり市総合計画

まちづくりの理念

- 人が生きることと豊かな自然が共生するみどり市をつくれます【人と自然の共生】
- 人の活動とまちに資源が織りなす豊かさづくりに取り組みます【地域資源の活用】
- 人とひととが助け合い、協働してまちづくりに取り組みます【助け合いと協働】

将来像

～輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市～

基本戦略

- ① 人が輝くまちづくり
- ② 安全で快適なまちづくり
- ③ 活力あふれるまちづくり
- ④ 自立と協働のまちづくり

みどり市地域公共交通計画

将来像（案）

第2次みどり市総合計画と
同じ目標を共有

～輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市～

基本的な方針（案）

地域公共交通の「あるべき姿」

輝くひと 輝くみどり 未来へつなぐ公共交通

【輝く人】 = 公共交通利用者 ⇒ 利便性を確保

【輝くみどり】 = 多様な公共交通 ⇒ 持続可能性を確保

目標（案）

地域公共交通の「あるべき姿を」
実現するために期間中に達成すべきこと

① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

- ・利用者が快適に移動できるだけでなく、生活の質を向上させ、地域の価値を高め、地域をつなぎ暮らしを支える公共交通を目指す。

② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

- ・誰でも安心して利用できる環境を整え、安心と笑顔を運ぶ公共交通を目指す。

③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

- ・人々の移動を円滑にすることで、まちに活気と成長をもたらし、地域の躍動を支える公共交通を目指す。

④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

- ・地域住民や周辺自治体、交通事業者と連携し、持続可能で環境に配慮した、共に考え共に創る公共交通を目指す。

3) 将来のイメージ

(1) 計画で定める基本的な方針・目標

【再掲】みどり市地域公共交通計画

将来像 (案)

第2次みどり市総合計画と
同じ目標を共有

～輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市～

基本的な方針 (案) 地域公共交通の「あるべき姿」

輝くひと 輝くみどり 未来へつなぐ公共交通

【輝く人】 = 公共交通利用者 ⇒ 利便性を確保

【輝くみどり】 = 多様な公共交通 ⇒ 持続可能性を確保

目標 (案)

地域公共交通の「あるべき姿」
実現するために期間中に達成すべきこと

① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

- ・利用者が快適に移動できるだけでなく、生活の質を向上させ、地域の価値を高め、地域をつなぎ暮らしを支える公共交通を目指す。

② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

- ・誰でも安心して利用できる環境を整え、安心と笑顔を運ぶ公共交通を目指す。

③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

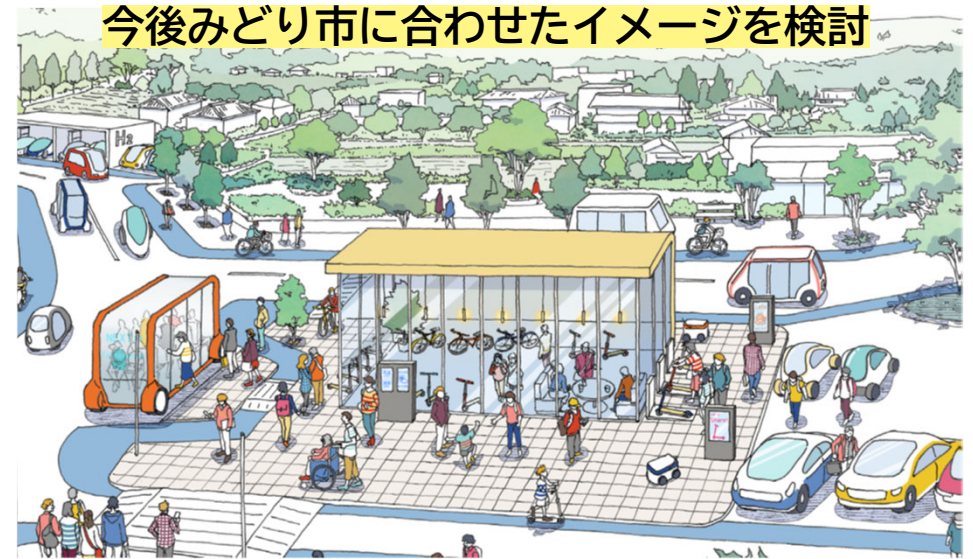
- ・人々の移動を円滑にすることで、まちに活力と成長をもたらし、地域の躍動を支える公共交通を目指す。

④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

- ・地域住民や周辺自治体、交通事業者と連携し、持続可能で環境に配慮した、共に考え共に創る公共交通を目指す。

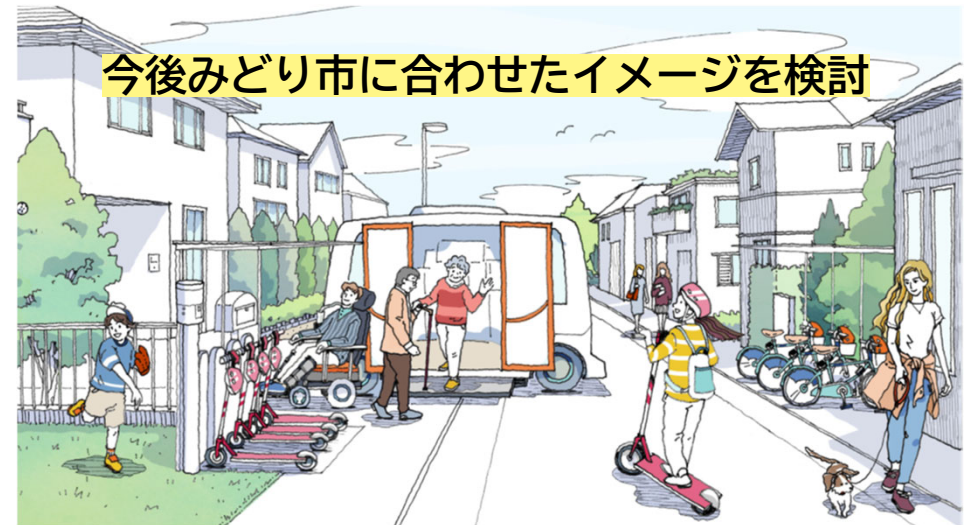
将来のイメージ

今後みどり市に合わせたイメージを検討



様々な交通モードの接続・乗り換え拠点（モビリティハブ）

今後みどり市に合わせたイメージを検討



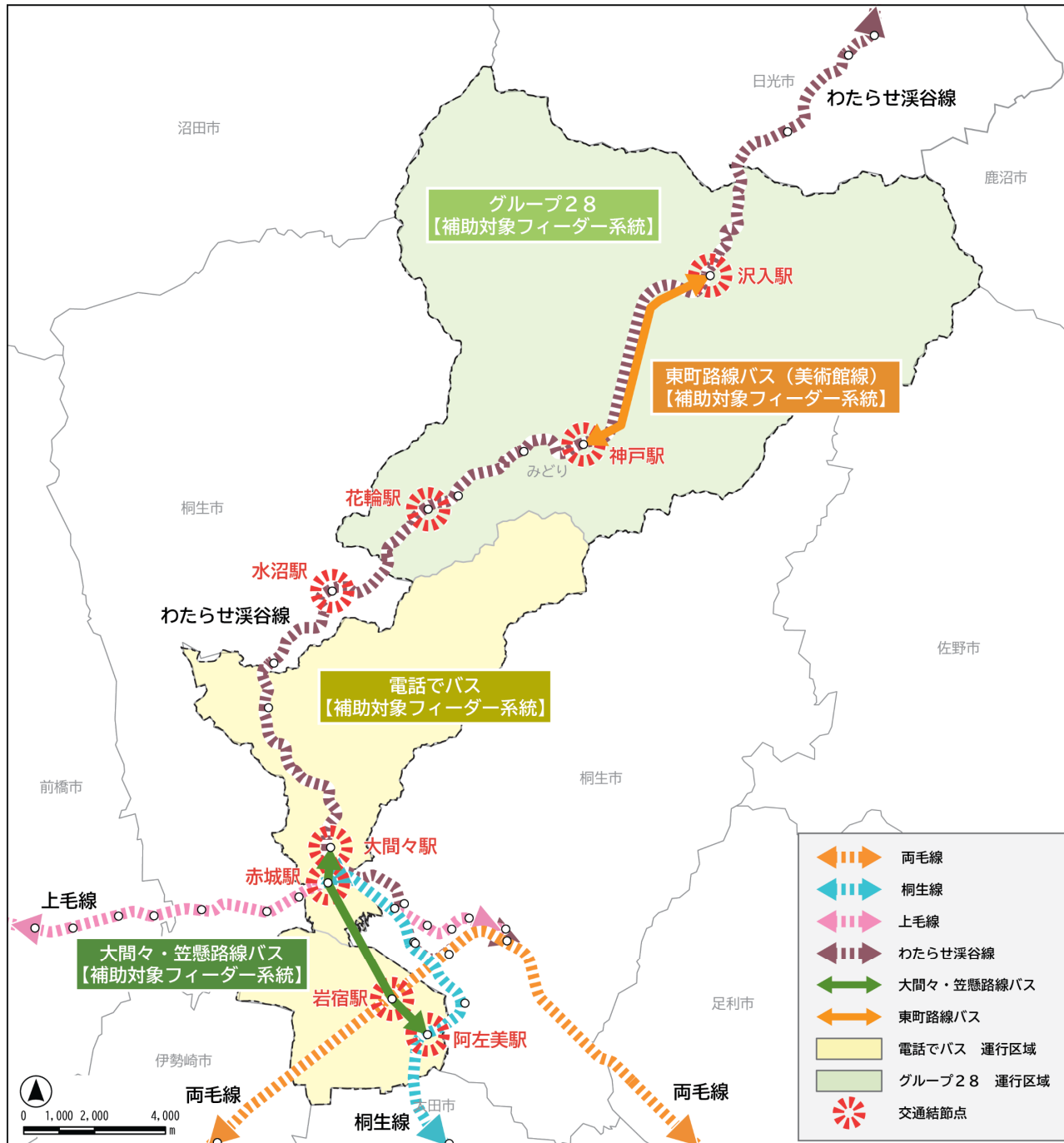
マイカーを持たなくても便利に安心して移動できるモビリティサービス

2. みどり市地域公共交通計画の記載事項について

(2) みどり市内の公共交通の位置付け

1) 公共交通ネットワークの位置付け (案)

(2) みどり市内の公共交通の位置付け

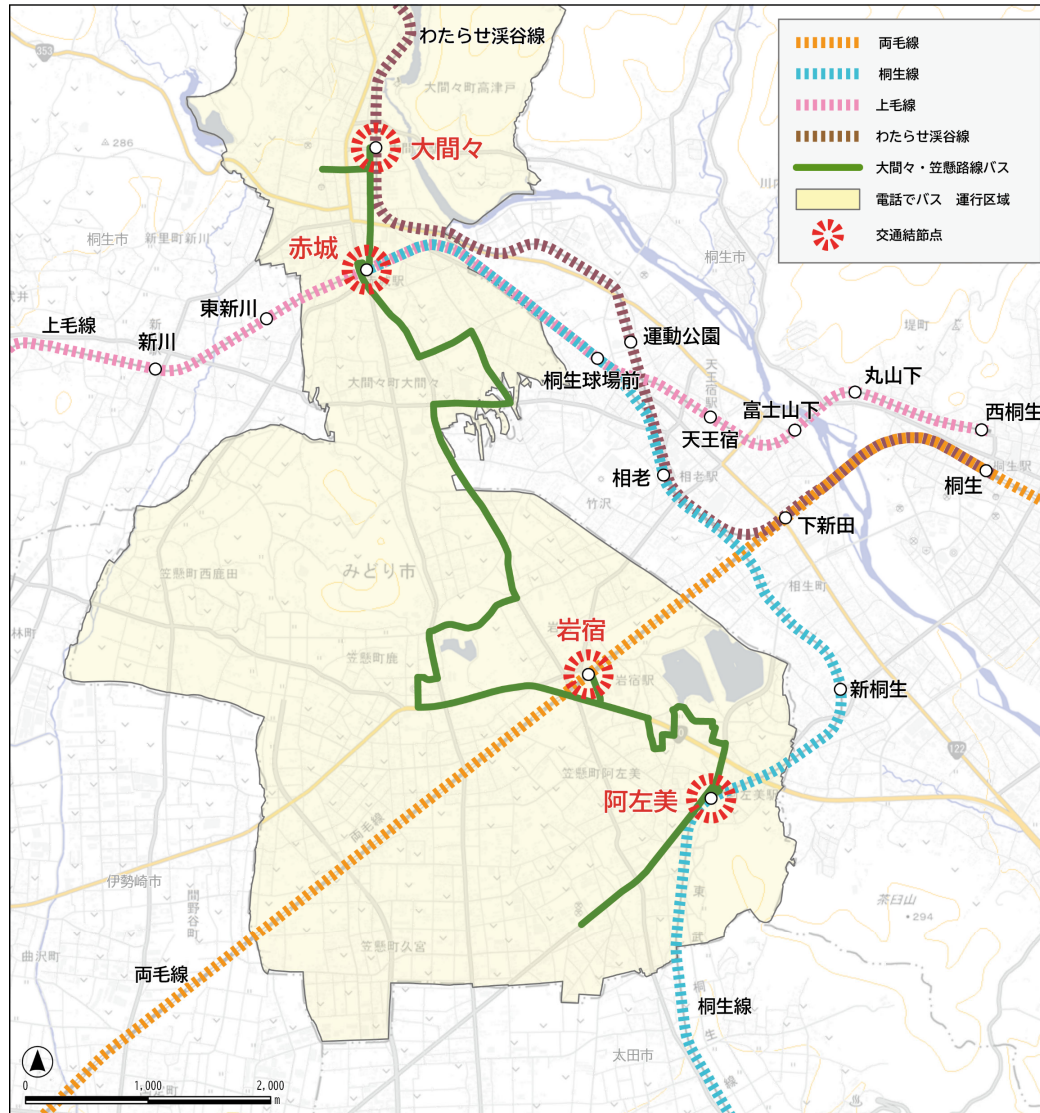


位置付け	交通サービス
幹線	● 両毛線 ● 桐生線 ● 上毛線 ● わたらせ渓谷線
支線	● 大間々・笠懸路線バス ● 東町路線バス ● 電話でバス ● 交通空白地有償運送
補完	● タクシー ● 福祉有償運送 ● 小中学校スクールバス ● 桐生大学スクールバス ● 観光周遊バス[eCOM-8] ● ポートレース桐生無料巡回バス
交通結節点	● 岩宿駅 ● 阿左美駅 ● 赤城駅 ● 大間々駅 ● 花輪駅 ● 神戸駅 ● 沢入駅 ● 水沼駅

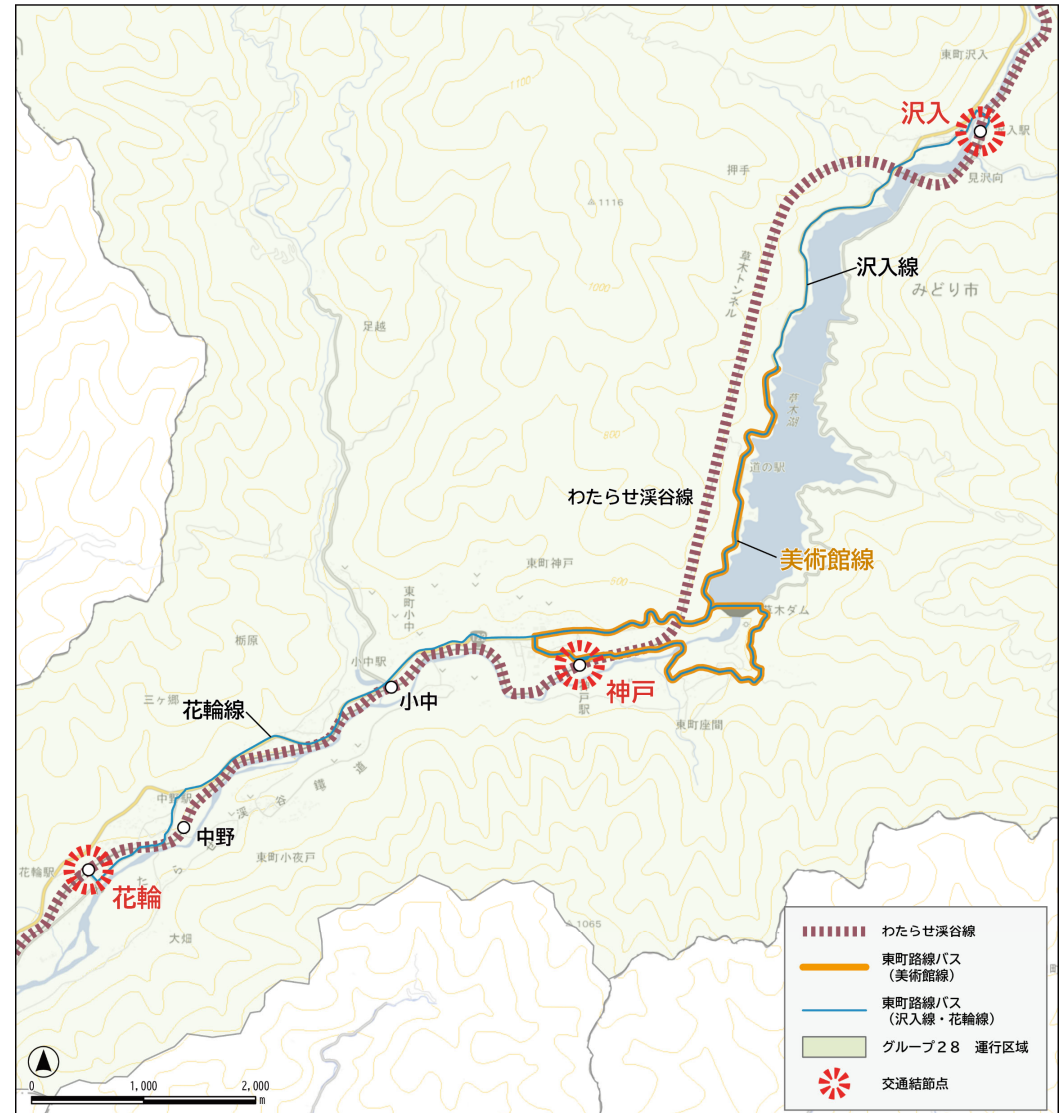
1) 公共交通ネットワークの位置付け (案)

(2) みどり市内の公共交通の位置付け

□ 南部地域 (笠懸町・大間々町)



□ 北部地域 (東町)



2) 南部地域（笠懸町・大間々町）の公共交通の位置付け（案）

（2）みどり市内の公共交通の位置付け

位置付け	交通サービス	交通事業者	主な役割	確保・維持策
幹線	● 両毛線	・東日本旅客鉄道(株)	・岩宿駅から桐生市・伊勢崎市・前橋市・高崎市への地域間の移動を担う。 ・JR高崎線・北陸新幹線及びJR宇都宮線・東北新幹線に接続し、都市間の移動を担う。	・交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。 ・地域の実情に応じて、様々な側面から持続可能な政策を検討する。※1 ・沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取組を検討する。※1 ・沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する※2
	● 桐生線	・東武鉄道(株)	・赤城駅・阿左美駅から太田市・館林市への地域間の移動を担う。 ・伊勢崎線及び日光線に接続し、都市間の移動を担う。	
	● 上毛線	・上毛電気鉄道(株)	・赤城駅から前橋市・桐生市への移動を担う。 通勤・通学をメインとした地域間の移動を担う。	
	● わたらせ渓谷線	わたらせ渓谷鐵道(株)	・大間々駅から東町・桐生市への地域間の移動を担う。 ・間藤駅からは日光市に接続し、都市間の移動を担う。	
支線	● 大間々・笠懸路線バス 【補助対象フィーダー系統】	・みどり市（委託）	・大間々駅・赤城駅・岩宿駅・阿左美駅を接続し、地域内の移動を担う。	・地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。
	● 電話でバス 【補助対象フィーダー系統】	・みどり市（委託）	・大間々・笠懸エリア内の地域内の移動を担う。 ・一部で、桐生市と地域間の移動を担う。	
補完	● タクシー	・沼田屋タクシー(株) ・桐生合同自動車(株) ・桐生朝日自動車(株)	・ドアツードアの移動を担う。 ・地域内・地域間の移動を担う。	・利用ニーズに応じた運行水準を確保する。
	● 福祉有償運送	・福祉有償運送事業者	・障がい者・高齢者等の個別の移動を担う。	
	● 小中学校スクールバス	・みどり市（委託）	・統廃合した小中学校の学区の児童・生徒の登下校を担う。	
	● 桐生大学スクールバス	・桐生大学（委託）	・桐生第一高校・桐生大学を結び、桐生駅・阿左美駅を経由し学生の登下校を担う。	
	● 観光周遊バス[eCOM-8]	・みどり市観光協会	・観光地までの移動、観光地のPRを目的とした運行を担う。	
	● ボートレース桐生 無料巡回バス	・(株)ボートネットワーク	・岩宿駅・阿左美駅からボートレース桐生、ボートレース桐生・みどモスストリートパークまでの移動を担う。	
交通結節点	● 岩宿駅 ● 阿左美駅 ● 赤城駅 ● 大間々駅	・東日本旅客鉄道(株) ・東武鉄道(株) ・上毛電気鉄道(株) ・わたらせ渓谷鐵道(株)	・幹線と支線を繋ぐ主要な鉄道駅であり、各公共交通の乗り継ぎの拠点となる。	

※1：「上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道」のみ、※2：「わたらせ渓谷鐵道」のみ（沿線地域交通・デザイン推進協議会「今後のあり方に関する基本方針」より）

3) 北部地域（東町）の公共交通の位置付け（案）

（2）みどり市内の公共交通の位置付け

位置付け	交通サービス	交通事業者	主な役割	確保・維持策
幹線	● わたらせ渓谷線	・わたらせ渓谷鐵道(株)	・花輪駅・中野駅・小中駅・神戸駅・沢入駅から笠懸町・大間々町・桐生市への地域間の移動を担う。 ・沢入駅からは日光市の間藤駅に接続し、都市間の移動を担う。	・交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保する。 ・地域の実情に応じて、様々な側面から持続可能な政策を検討する。※1 ・沿線住民の公共交通に関する意識醸成を促す取組を検討する。※1 ・沿線自治体によるわたらせ渓谷鐵道に対する補助は従来と同じ形式（第三セクター）で継続する※2
支線	● 東町路線バス（美術館線） 【補助対象フィーダー系統】	・みどり市（委託）	・神戸駅から富弘美術館までを接続し、わたらせ渓谷線から主に観光客の移動を担う。	・地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。
	● 東町路線バス（沢入線・花輪線）	・みどり市（委託）	・神戸駅・沢入駅・花輪駅を接続し、地域内の移動を担う。	・利用ニーズに応じた運行水準を確保する。
	● 交通空白地有償運送 【補助対象フィーダー系統】	・グループ28	・日常生活の移動に困っている人の移動を担う。 ・東エリアの地域内の移動、大間々・笠懸エリアの地域内の移動を担う。	・地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助、車両購入補助）を活用し、持続可能な運行を目指す。
補完	● タクシー	・沼田屋タクシー(株) ・桐生合同自動車(株) ・桐生朝日自動車(株)	・ドアツードアの移動を担う。 ・地域内・地域間の移動を担う。	・利用ニーズに応じた運行水準を確保する。
	● 福祉有償運送	・福祉有償運送事業者	・障がい者・高齢者等の個別の移動を担う。	
	● 小中学校スクールバス	・みどり市（委託）	・あずま小中学校に通学する児童・生徒の登下校を担う。	
	● 観光周遊バス	・みどり市観光協会	・観光地までの移動、観光地のPRを目的とした運行を担う。	
交通結節点	● 花輪駅 ● 神戸駅 ● 沢入駅 ● 水沼駅	・わたらせ渓谷鐵道(株)	・幹線と支線を繋ぐ主要な鉄道駅であり、各公共交通の乗り継ぎの拠点を担う。	

※1：「上毛電気鉄道・わたらせ渓谷鐵道」のみ、※2：「わたらせ渓谷鐵道」のみ

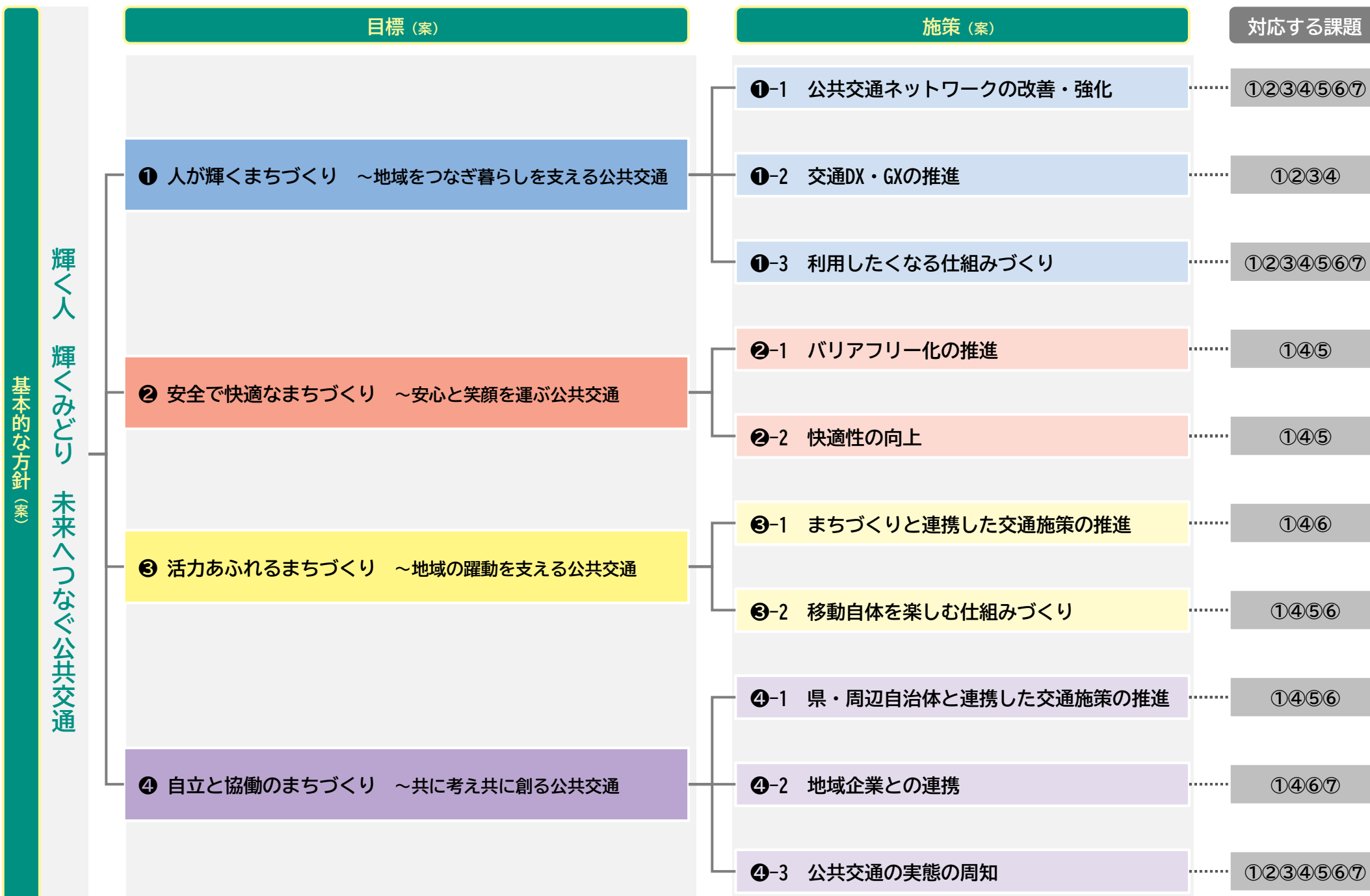
（沿線地域交通・デザイン推進協議会「今後のあり方に関する基本方針」より）

2. みどり市地域公共交通計画の記載事項について

(3) 計画で定める施策体系・事業内容

1) 施策体系 (案)

(3) 計画で定める施策体系・事業内容



① 人が輝くまちづくり ～地域をつなぎ暮らしを支える公共交通

①-1 公共交通ネットワークの改善・強化

□ 目的

- ・市民の公共交通利用での「おでかけ」を実現し、みどり市を訪れる観光客が快適に移動できるよう、既存の公共交通の改善・強化し、持続可能な公共交通を実現することを目的とする。
- ・既存の公共交通の無駄を省き、効率的な運行と適切な予算配分を実現することを目的とする。

□ 事業内容

- ①-1-1 4 鉄道の維持・連携強化
- ①-1-2 大間々・笠懸路線バスの改善・見直し
- ①-1-3 東町路線バスの改善・見直し
- ①-1-4 電話でバスの改善・見直し
- ①-1-5 駅・バス停の整備
- ①-1-6 ライドシェアの導入検討
- ①-1-7 レンタサイクルの充実
- ①-1-8 わたらせ渓谷鐵道の運行支援
- ①-1-9 補助制度の活用

①-2 交通DX・GXの推進

□ 目的

- ・デジタル技術を活用した事業改革と環境に配慮した運行を推進し、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。

□ 事業内容

- ①-2-1 AIオンデマンド交通システムの導入
- ①-2-2 運賃のキャッシュレス化の導入検討
- ①-2-3 バスロケーションシステムの導入の検討
- ①-2-4 グリーンスローモビリティの運行
- ①-2-5 デジタルサイネージの設置
- ①-2-6 MaaSシステムの導入検討

①-3 利用したくなる仕組みづくり

□ 目的

- ・公共交通の利便性向上だけでなく、移動の快適性と情報提供の質を向上させ、魅力を発信することで、利用の「きっかけ」を創出し、さらなる利用促進を図ることを目的とする。

□ 事業内容

- ①-3-1 公共交通イベントの開催
- ①-3-2 バス停留所の案内看板デザインの変更
- ①-3-3 運賃補助制度の拡充
- ①-3-4 乗り方教室の実施
- ①-3-5 広報戦略の改善

② 安全で快適なまちづくり ～安心と笑顔を運ぶ公共交通

②-1 バリアフリー化の推進

□ 目的

- ・車両・駅・バス停などのバリアフリー化を進めることで、公共交通の利用における障壁をなくすことを目的とする。

□ 事業内容

- ②-1-1 バリアフリー車両の導入
- ②-1-2 駅機能の整備

②-2 快適性の向上

□ 目的

- ・デジタル技術の活用や待合環境の改善を通じて、公共交通の利用をより快適にし、ストレスのない移動を実現することを目的とする。

□ 事業内容

- ②-2-1 公共交通オープンデータの整備・活用検討
- ②-2-2 駅・バス停の整備【①-1-5 再掲】
- ②-2-3 運賃のキャッシュレス化の導入検討【①-2-2 再掲】
- ②-2-4 バスロケーションシステムの導入検討【①-2-3 再掲】
- ②-2-5 デジタルサイネージの設置【①-2-5 再掲】
- ②-2-6 MaaSシステムの導入検討【①-2-6 再掲】

③ 活力あふれるまちづくり ～地域の躍動を支える公共交通

③-1 まちづくりと連携した交通施策の推進

□ 目的

- ・「第2次みどり市総合計画」で掲げる将来像「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」の実現に向け、公共交通の分野からまちづくりを推進することを目的とする。

□ 事業内容

- ③-1-1 立地適正化計画との連携
- ③-1-2 観光施策との連携

③-2 移動自体を楽しむ仕組みづくり

□ 目的

- ・公共交通を単なる移動手段とするのではなく、移動そのものを楽しめるようにし、みどり市ならではの特別な移動環境を整えることを目的とする。
- ・公共交通とまちなか活性化事業を組み合わせ、地域の活性化を推進することを目的とする。

□ 事業内容

- ③-2-1 景観を活かした運行
- ③-2-2 グリーンスローモビリティの運行【①-2-4 再掲】
- ③-2-3 新たな移動サービスの調査・検討

④ 自立と協働のまちづくり ～共に考え共に創る公共交通

④-1 周辺自治体と連携した交通施策の推進

□ 目的

- ・群馬県及びみどり市と生活圏を共有する桐生市の連携を強化し、地域の活性化を促すことを目的とする。

□ 事業内容

- ④-1-1 群馬県との連携強化
- ④-1-2 桐生市との連携強化

④-2 地域企業との連携

□ 目的

- ・公共交通を単なる移動手段として利用するのではなく、みどり市を知ってもらうためのツールとして活用し、地域の活性化につなげることを目的とする。
- ・地域ブランドの認知度向上と公共交通の利便性向上を両立させ、持続可能な社会づくりを推進することを目的とする。

□ 事業内容

- ④-2-1 地元企業産のグッズの販売
- ④-2-2 広告協賛事業の導入検討
- ④-2-3 商業施設・医療施設との連携

④-3 公共交通の実態の周知

□ 目的

- ・移動手段を提供するだけでなく、公共交通の現状と将来のあり方を共に考え、利便性の向上とサービス認知度の拡大を図り、持続可能な公共交通を構築することを目的とする。

□ 事業内容

- ④-3-1 公共交通の利用実態調査・モニタリングの実施
- ④-3-2 公共交通イベントの開催
【①-3-1 再掲】
- ④-3-3 広報戦略の改善【①-3-5 再掲】

2. みどり市地域公共交通計画の記載事項について

(4) 計画で定める評価指標

1) 評価指標（案） [1/2]

（４）計画で定める評価指標

- 「評価指標」とは、目標の達成状況を適切に表現し、定量的に評価しやすくするための指標として設定するものであり、住民や交通利用者目線でわかりやすい指標を選定することが重要となります。

標準指標：地域旅客サービスの提供を確保し、利便性・持続可能性・生産性の高い地域公共交通ネットワークを実現するために、公共交通が適切に運営されているかを判断する上で設定する必要性が高いものであり、「住民等公共交通の利用者数」「公共交通の収支（収支率・収支差）」「公共交通への公的資金投入額」の3つが該当する。原則全ての計画において設定するように努める。

区分	評価指標	備考	基準値	目標値
標準	● 公共交通（鉄道）の利用者数	「鉄道」の利用者数（市内11駅）〈日平均〉	データ収集中	
	● 公共交通（バス）の利用者数	「大間々笠懸路線バス」利用者数〈日平均〉	[2024年度] 25人/日 (9,456人)	
		「東町路線バス」の利用者数〈日平均〉	[2024年度] 15人/日 (5,700人)	
		「電話でバス」の利用者数〈日平均〉	[2024年度] 49人/日 (17,914人)	
	● 公共交通（バス）の収支率	「大間々笠懸路線バス」の収支率	[2024年度] 5%	
		「東町路線バス」の収支率	[2024年度] 9%	
		「電話でバス」の収支率	[2024年度] 8%	
	● 公共交通への公的資金投入額	「大間々・笠懸路線バス」への公的資金投入額	[2024年度] 1,500万円	
		「東町路線バス」への公的資金投入額	[2024年度] 1,500万円	
		「電話でバス」への公的資金投入額	[2024年度] 5,700万円	

- 「評価指標」とは、目標の達成状況を適切に表現し、定量的に評価しやすくするための指標として設定するものであり、住民や交通利用者目線でわかりやすい指標を選定することが重要となります。

個別指標：各目標における施策・事業を評価するために設定

目標	評価指標	備考	基準値	目標値
①	● 移動に困らない市民の割合	・ 移動に困っている市民の割合を把握する。 ・ 「第2次みどり市総合計画」での指標	[2024度] 73.9% (一般)	
			[2024度] 73.2% (70歳以上)	
	● 電話でバスにおける予約成立率	・ 「電話でバス」を利用したい方が利用できているかを把握する。 ・ 「第2次みどり市総合計画」での指標	[2024度] 52.9%	
②	● 駅・バス停留所等の環境整備事業件数	・ 駅・バス停留所の安全対策や待合環境の改善度合いを把握する。	0件	
③	● わたらせ渓谷鐵道「トロッコわたらせ渓谷号」「トロッコわっしー号」の平均利用者数	・ 公共交通が観光振興へ寄与しているかを把握する。	データ収集中	
	● 観光周遊バスの平均利用者数	・ 公共交通が観光振興へ寄与しているかを把握する。	[2024度] 43人/日 (2,374人/54日間)	
④	● 公共交通に関するイベント・教室の参加人数	・ 公共交通への興味・関心度合いを把握する。	[2024度] 0人	
	● 温室効果ガス削減量	・ 公共交通の利用が環境負荷対策に寄与しているかを把握する。	算出方法を検討中	

3. 今後について

(1) 今後の検討の流れ

本日の検討内容

月	活性化協議会		STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	STEP5
R6.11	#2	■ みどり市の公共交通の実態について ■ 事業者ヒアリング結果について ■ アンケート調査の設計について		・地域のあるべき姿 上位計画・関連計画等	・現状の把握 ・アンケート調査 (案)	・現状の把握 ・アンケート調査 (案)	
12					アンケート調査 ✓ 市民、高校生アンケート ✓ 来訪者アンケート ✓ 大間々・笠懸路線バス利用者アンケート		
R7.1	#3	■ 書面開催					
2							
3	#4	■ アンケート調査の結果について ■ 公共交通の課題について	・計画の区域 (案) ・計画期間 (案)		・アンケート調査の結果 ・課題 (案)	・アンケート調査の結果	
4							
5							
6							
7	#1	■ 基本的な方針について ■ 目標について ■ 施策について		・基本的な方針 (案) あるべき姿 (スローガン)	・目標 (案) あるべき姿を実現するために達成すべきこと	・施策 (案) 目標達成のための事業	
8							
9	#2	■ 目標について ■ 施策について ■ 評価について			・目標 (案) あるべき姿を実現するために達成すべきこと	・施策 (案) 目標達成のための事業	・評価 (案) 方法 スケジュール
10			みどり市地域公共交通計画 (素案)				
11	#3	■ 地域公共交通計画(素案)について	②計画の区域 ⑥計画期間	①基本的な方針	③計画の目標	④事業・実施主体	⑤達成状況の評価
12			パブリックコメント				
R8.1							
2	#4	■ 地域公共交通計画(案)について	みどり市地域公共交通計画 (案)				
3			みどり市地域公共交通計画				